

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第3区分

【発行日】平成20年1月31日(2008.1.31)

【公開番号】特開2005-174340(P2005-174340A)

【公開日】平成17年6月30日(2005.6.30)

【年通号数】公開・登録公報2005-025

【出願番号】特願2004-355669(P2004-355669)

【国際特許分類】

G 06 F 9/44 (2006.01)

G 06 F 17/21 (2006.01)

【F I】

G 06 F 9/06 6 2 0 K

G 06 F 17/21 5 8 0 J

【手続補正書】

【提出日】平成19年12月7日(2007.12.7)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

マークアップ言語(ML)スキーマライブラリのリソースを変更するコンピュータ実行可能命令を記録するコンピュータ読み取り可能な記録媒体において、

前記コンピュータ実行可能命令は、

前記MLスキーマライブラリに対するオブジェクト指向のメッセージ呼び出しを受け取るステップであって、前記オブジェクト指向のメッセージ呼び出しは、前記MLスキーマライブラリのMLスキーマファイルを変更するように設定されている、ステップと、

前記オブジェクト指向のメッセージ呼び出しと関連付けられたオブジェクトプロパティを受け取るステップであって、前記オブジェクトプロパティは、前記MLスキーマライブラリの前記MLスキーマの機能を変更するソフトウェアオブジェクトと関連付けられている、ステップと、

前記オブジェクト指向のメッセージ呼び出しと前記オブジェクトプロパティを受け取ると、前記MLスキーマライブラリの前記MLスキーマファイルの機能を変更するステップと、

前記MLスキーマファイルの前記変更された機能をドキュメントに関連付け、前記ドキュメント上のMLエレメントのアプリケーションを管理するステップと

を含むことを特徴とするコンピュータ読み取り可能な記録媒体。

【請求項2】

前記MLスキーマライブラリの前記MLスキーマファイルの機能を変更するステップは、

ドキュメントにMLマークアップを適用すること、

ドキュメントからMLマークアップを削除すること

を含むグループの中の少なくとも1つのメンバーを引き起こすことを特徴とする請求項1に記載のコンピュータ読み取り可能な記録媒体。

【請求項3】

前記MLスキーマライブラリの前記MLスキーマファイルの機能を変更するステップは、

ドキュメントに適用される M L マークアップに X S L T 変換を関連付けること、
ドキュメントに適用される M L マークアップと X S L T 変換との関連を削除すること
を含むグループの中の少なくとも 1 つのメンバーを引き起こすことを特徴とする請求項
1 に記載のコンピュータ読み取り可能な記録媒体。

【請求項 4】

前記 M L スキーマライブラリの前記 M L スキーマファイルの機能を変更するステップは、
ドキュメントに適用される M L マークアップに M L ベースリソースを関連付けること、
ドキュメントに適用される M L マークアップと M L ベースリソースとの関連を削除する
こと

を含むグループの中の少なくとも 1 つのメンバーを引き起こすことを特徴とする請求項
1 に記載のコンピュータ読み取り可能な記録媒体。

【請求項 5】

マークアップ言語 (M L) スキーマライブラリのリソースを変更するコンピュータシス
テムであって、

プロセッサと、

コンピュータ実行可能命令を記憶するメモリと
を備え、

前記コンピュータ実行可能命令は、

前記 M L スキーマライブラリに対するオブジェクト指向のメッセージ呼び出しを受け
取るステップであって、前記オブジェクト指向のメッセージ呼び出しは、前記 M L スキ
ーマライブラリの M L スキーマファイルを変更するように設定されている、ステップと、

前記オブジェクト指向のメッセージ呼び出しと関連付けられたオブジェクトプロパティ
を受け取るステップであって、前記オブジェクトプロパティは、前記 M L スキーマライ
ブラリの前記 M L スキーマファイルの機能を修正するソフトウェアオブジェクトと関連付
けられている、ステップと、

前記オブジェクト指向のメッセージ呼び出しと前記オブジェクトプロパティを受け取
ると、前記 M L スキーマライブラリの前記 M L スキーマファイルの機能を変更するステッ
プと、

前記 M L スキーマファイルの前記変更された機能をドキュメントに関連付け、前記ド
キュメント上の M L エレメントのアプリケーションを管理するステップと

を含むことを特徴とするシステム。

【請求項 6】

前記 M L スキーマライブラリの前記 M L スキーマの機能を変更するステップは、

ドキュメントに M L マークアップを適用すること、

ドキュメントから M L マークアップを削除すること、

ドキュメントに適用された M L マークアップに X S L T 変換を関連付けること、

ドキュメントに適用された M L マークアップと X S L T 変換との関連を削除すること、

ドキュメントに適用された M L マークアップに M L ベースリソースを関連付けること、

ドキュメントに適用された M L マークアップと M L ベースリソースとの関連を削除する
こと

を含むグループの中の少なくとも 1 つのメンバーを引き起こすことを含むことを特徴と
する請求項 5 に記載のシステム。

【請求項 7】

マークアップ言語 (M L) スキーマライブラリのリソースを変更する方法において、

オブジェクト指向のメッセージ呼び出しを介して前記 M L スキーマライブラリを呼び出
すステップであって、前記オブジェクト指向のメッセージ呼び出しは、前記 M L スキーマ
ライブラリの M L スキーマファイルを変更するように設定されている、ステップと、

オブジェクトプロパティを前記オブジェクト指向のメッセージ呼び出しに関連付けて、
前記 M L スキーマライブラリに渡すステップであって、前記オブジェクトプロパティは、
前記 M L スキーマライブラリにおいて識別された機能と関連付けられたソフトウェアオブ

ジェクトと関連している、ステップと、

前記メッセージ呼び出しと、前記MLスキーマライブラリに渡された前記オブジェクトプロパティを受けると、前記MLスキーマライブラリにおいて識別された前記MLスキーマファイルの機能を変更するステップと、

前記MLスキーマファイルの前記変更された機能をドキュメントに関連付け、前記ドキュメント上のMLエレメントのアプリケーションを管理するステップと
を含むことを特徴とする方法。

【請求項8】

前記MLスキーマライブラリにオブジェクトプロパティを渡すステップは、新しいMLネーム空間を作成し、MLネーム空間の集合に前記新しいMLネーム空間を加えるメソッドプロパティを渡すことと含み、

前記新しいMLネーム空間に関連付けられたスキーマファイルへのパスと、前記新しいMLネーム空間のユニフォームリソース識別子は、前記メソッドプロパティのパラメータとして、前記MLスキーマライブラリに渡されることを特徴とする請求項7に記載の方法。

【請求項9】

前記MLスキーマライブラリにオブジェクトプロパティを渡すステップは、前記MLスキーマライブラリにMLネーム空間を登録するソリューションマニフェストをインストールするメソッドプロパティを渡することと含むことを特徴とする請求項7に記載の方法。

【請求項10】

前記MLスキーマライブラリにオブジェクトプロパティを渡すステップは、数字インデックスを用いて、MLリソースの集合から個別のMLリソースにアクセスするメソッドプロパティを渡することと含み、個別のMLリソースに関連付けられた数字インデックスは、前記メソッドプロパティのパラメータとして渡されることを特徴とする請求項7に記載の方法。

【請求項11】

前記MLスキーマライブラリに前記オブジェクトプロパティを渡すステップは、前記MLスキーマライブラリにおいて識別された指定ネーム空間に関連付けられたエイリアス名を制御するオブジェクトプロパティを渡することと含むことを特徴とする請求項7に記載の方法。

【請求項12】

前記MLスキーマライブラリに前記オブジェクトプロパティを渡すステップは、指定MLネーム空間の指定MLスキーマファイルを指定ドキュメントに添付するメソッドプロパティを渡すことと含み、前記指定ドキュメントを指すポインタは、前記メソッドプロパティのパラメータとして、前記MLスキーマライブラリに渡されることを特徴とする請求項7に記載の方法。

【請求項13】

前記MLスキーマライブラリに前記オブジェクトプロパティを渡すステップは、指定ネーム空間に関連付けられたデフォルトXSLT変換を指すオブジェクトプロパティを渡すことと含むことを特徴とする請求項7に記載の方法。

【請求項14】

前記MLスキーマライブラリにオブジェクトプロパティを渡すステップは、ネーム空間オブジェクトの集合からMLネーム空間オブジェクトを削除するメソッドプロパティを渡すことと含むことを特徴とする請求項7に記載の方法。

【請求項15】

前記MLスキーマライブラリにオブジェクトプロパティを渡すステップは、新しいXSLT変換を作成し、XSLT変換の集合に前記新しいXSLT変換を加えるメソッドプロパティを渡すことと含み、前記新しいXSLT変換を指すポインタは、前記メソッドプロパティへのパラメータとして、前記MLスキーマライブラリに渡されることを特徴とする請求項7に記載の方法。

【請求項 16】

数字インデックスを用いて XSLT 変換の集合に含まれる個別の XSLT 変換にアクセスするメソッドプロパティをさらに含み、前記 MSLスキーマライブラリにおける要求された XSLT 変換の位置を表す数字インデックスは、前記メソッドプロパティを持つ前記 MSLスキーマライブラリへのパラメータとして渡されることを特徴とする請求項 7 に記載の方法。

【請求項 17】

前記 MSLスキーマライブラリにオブジェクトプロパティを渡すステップは、前記 MSLスキーマライブラリにおいて識別された XSLT 変換に関連付けられたエイリアス名を制御するオブジェクトプロパティを渡すことを含むことを特徴とする請求項 7 に記載の方法。

【請求項 18】

前記 MSLスキーマライブラリに前記オブジェクトプロパティを渡すステップは、 XSLT 変換の集合から XSLT 変換を削除するメソッドプロパティを渡することを含むことを特徴とする請求項 7 に記載の方法。